

と ネットワーク



△静岡の自然100選にも選ばれた浮島ヶ原



豊かな自然環境と 快適な田園文化のまち 浮島

各公民館単位で地域の問題を紹介してきた「まちかどネットワーク」も今回で市内を一回りしました。来年2月から、スタイルを変えた「まちかどネットワーク」をお送りします。これからも、皆さんの身近な話題、ご意見などをお寄せください。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2823 締め切りは毎月15日です。

浮島地区は、富士市の最も東に位置し、昭和三十一年駿東郡原町から分離して、当時の吉原市に合併した典型的な農村地域です。地区内には縄文時代の的場遺跡や船津古墳群などがあり、早くから開けた土地です。

今日見られる南部の水田地帯は、浮島沼を開墾してできた地で、昭和三十二年から三十六年にかけての区画整理事業で碁盤の目のように整備されました。

また、東名から北は、なだらかな丘陵地帯で、茶畑が広がり静かな農村地域です。

住民は、根方街道沿いと春山川の扇状地に集落を形成しています。が、地区の人口はここ数年あまり変化はありません。

こうした中で、若い労働力が他産業に流出するため、農業労働力は高齢化傾向にあり、後継者問題が生じています。

一方、人家の密集している地域では、道路など生活環境の充実が望まれる地区でもあります。



△写真左から一穂さん、恭子さん、信太君、利之さん、裕人君

年齢制限で出場できませんでしたが、長女の一穂さん(須津中二年)も、マラソンなど持久力では弟に負けません。

今回のリレーはぶっつけ本番。バトンタッチもスムーズでした。「バトンタッチは家族の和のあらわれかな。夫婦げんかをしないのが、明るい家族につながっていると思うよ」と利之さん。一番の勝因は家庭円満にあったようです。

おじやま
おします

いだてん一家

浮島町一 高木さん一家

十月十日・体育の日に行われた体力づくり市民大会。高木さん一家は、ことし初めて競技種目となった家族対抗リレーで優勝しました。今回は、いだてん高木さんファミリーにおじやましました。

「ねえ、家族対抗リレーに出ようよ」と、言い出しっぺはお母さんの恭子さん(三十七歳)。全員がスポーツマンの高木さんちですから一つ返事で出場が決まりました。

お父さんの利之さん(四十五歳)は、「ふだん夜十一時前には帰宅したことがない」という仕事の虫。かつてはバレーボールの選手として鳴りましたが、現在はたまにママさんバレーの臨時コーチをする程度。スポーツとは縁遠い毎日にもかかわらず、見事トップでゴールを駆けぬけました。

優勝の原動力となったのは、長男の裕人君(東小六年)と次男の信太君(同三年)。二人共小さいころから運動会ではいつも一番。特に、裕人君は十月二十五日に行われた市内陸上大会の百メートルの部で優勝するなど、ずば抜けた走力を持っています。